

茨城県の気候に適するリンゴ優良品種・ 系統の選定及び化学農薬削減技術の確立

山間地帯特産指導所

1 背景と目的

本県のリンゴは、県北山間地域を中心とする観光直売向けの重要な品目です。しかし、本県は平地でのリンゴ栽培の経済的南限と言われる産地であり、気候温暖化の影響を受けやすいところです。

近年は、従来の品種では、果肉の軟化や日持ちがしない、着色やミツ入りの不良など、果実品質の低下が問題となっており、これらの問題を解決する優良品種・系統が求められています。

そこで、温暖な本県の気候条件下においても優良な中生品種及び「ふじ」着色系統を選定しました。

2 研究成果の概要

○「トキ」の果実特性（表1）

- ・収穫期は9月中旬～下旬の中生品種です。
- ・糖度や硬度が高く、酸味が少ない、甘味の強い品種です。
- ・日持ち性は、7～15日程度（9月室温）で優れます。
- ・「秋映」（9/下～10月収穫）、「シナノスイート」（10/上～中収穫）、「シナノゴールド」（10月収穫）より早い収穫時期の優良品種として「トキ」を選定しました。

○「ふじ」着色系統「長ふ12」の果実特性及び着色（表2、図）

- ・糖度15.5%、ミツ入り指数2.7%と優れます。
- ・硬度、食味、果重、日持ち性も「普通ふじ」と同等で優れます。
- ・果皮中のアントシアニン濃度は、縞の無い「着色1系ふじ」に次いで高く、着色が優れます。
- ・縞のある外観で果皮の着色が良く、糖度、ミツ入り等内部品質に優れるため、「長ふ12」を選定しました。

3 実用化に向けた対応

主要課題現地検討会等を通じて、JA 茨城みどり大子町りんご部会（53 戸）や県内りんご生産者に対して、選定した品種・系統の紹介を行っています。

表1 「トキ」の果実特性
(H21～25の平均、「千秋」はH23～25の平均)

品種名	一果重 (g)	糖度 (Brix%)	硬度 (ポンド)
「トキ」	340	15.1	14.9
「千秋」 ¹⁾	268	12.6	13.8
「玉林」 ²⁾	400	14.2	14.2

1) 「トキ」と同時期収穫の従来赤色品種

2) 黄色の代表的従来品種(収穫時期は11月)



表2 「長ふ12」の果実特性 (H22～H25の平均)

系統名	糖度 (Brix%)	硬度 (ポンド)	ミツ入り 指数 ²⁾
「長ふ12」	15.5	13.9	2.7
「1系」 ¹⁾	15.8	12.7	2.2
「普通ふじ」	16.3	13.9	2.1

1) 1系: 「ふじ」の着色系統で縞の無いタイプを分類上指す

2) ミツ入り指数を0(無)～4(極多)

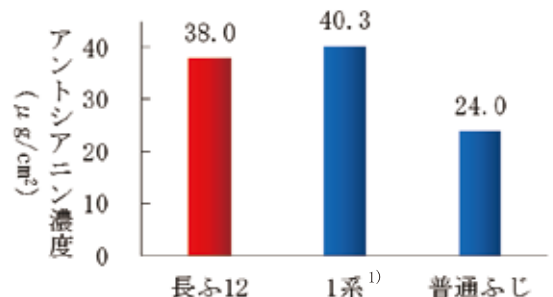


図 「長ふ12」の果皮アントシアニン濃度²⁾
(H22～H25の平均)

1) 表2と同様

2) 数値が高いほど赤色が濃くなる

生産現場の声

茨城では「トキ」と「ふじ」着色系統の「長ふ12」が栽培に適するということで、今後の栽培の参考になります。味や日持ちの良い「トキ」と品質の良い「長ふ12」を大子町に増やしていきたいと思えます。